

カンタン金銭出納帳
Version 6
マニュアル
2003年8月

目次

■カンタン金銭出納帳 VER.6 マニュアル.....	4
■セットアップ方法.....	4
1. BDE (ボーランドデータベースエンジン) 環境設定.....	4
2. アンインストール.....	5
■使用方法.....	5
1. レコードナビゲータボタン.....	6
1.1 グリッド (ワークシート) 操作.....	6
1.2 グリッドのスクロールバー.....	7
2. [金銭出納帳]ページ.....	7
2.1 勘定科目の一覧.....	7
2.2 [範囲]オプション.....	7
2.3 金銭出納帳.....	7
2.4 並べ方.....	8
2.5 入力用テキストボックス.....	8
2.6 ボタンの説明.....	9
2.7 グリッドの色別表示と画面位置の保存.....	9
3. [印刷/集計]ページ.....	10
3.1 [金銭出納帳印刷]ページ.....	10
3.2 [科目別集計/印刷]ページ.....	11
3.3 [区分別集計]ページ.....	11
4. [メモ]ページ.....	12
5. [科目修正]ページ.....	13
6. [レコード管理]ページ.....	14
7. [バックアップ]ページ.....	15
8. [フリー設計]ウィンドウ.....	15
8.1 既存のレポート定義ファイルを読み込む.....	15
8.2 レポート定義ファイルを新規に作成する.....	15
8.3 [式の設定]ダイアログボックス.....	24
■ファイル一覧.....	27
■転載・配布について.....	28

■開發環境..... 28

■免責事項..... 28

■カンタン金銭出納帳 Ver.6 マニュアル

単純かつ簡単な操作で記帳と集計、印刷が行なえる金銭出納帳です。現金での入金と出金だけを扱い、預金口座や自動引き落としなどには対応していません。単機能ですから、操作もカンタンになっています。

●【制限事項】

画面解像度は1024×768ドット以上が必要です。

なお、フォントサイズを大きくしている場合、フォーム上のコントロールの一部が正常に表示されません。

●バージョンごとの変更点

◎Version 6.1.5.4での変更点

グリッドで1行置きに色が付くようになりました。

グリッドでの摘要欄などの横幅が保存・復元されるようになりました。

◎Version 6.1.5での変更点

パスワードの設定ができるようになりました。

◎Version 6での変更点

「勘定科目名」と「摘要」の間に「区分」を新設しました。これにより区分別集計が行なえるようになりましたから、より細かな集計が行なえます。たとえば、交際費を細分化することなどができます。なお、区分の追加により、KINSEN.DBのデータ構造が変更されました。また、KUBUN.DBが追加されました。

◎Version 5での変更点

入力用の摘要欄にドロップダウンリストを表示するようにしました。キーボードから入力した内容が履歴として保存され、ドロップダウンリストに表示されます。

■セットアップ方法

インターネットからダウンロードしたファイルを実行して解凍すると、解凍先ディレクトリ内のSETUP.EXE（InstallShieldプログラム）が自動的に実行されます。あとは画面の指示に従ってください。

1. BDE（ボーランドデータベースエンジン）環境設定

SETUP.EXEを使って「カンタン金銭出納帳」をインストールすれば、必要なエリアス（データベースファイルの格納先ディレクトリの別名）の設定が自動的に行われます。デフォルトではkinsenv6というエリアスがセットアップ先のディレクトリのサブディレクトリにあるTableディレクトリに設定されます。

このエリアス名をKINSEN.EXEのパラメータに与えて「カンタン金銭出納帳」を実行するように、セットアッププログラムがインストールを行いません。[スタート]→[プログラム]→[カンタン金銭出納帳]→[カンタン金銭出納帳]で実行されるショートカットリンクには、この設定が行なわれています。エクスプローラから直接、カンタン金銭出納帳を実行したい場合は、ショートカットリンクの設定を参考にしてください。

パラメータとして与えるエリアス名が別のTableディレクトリを指していれば、そのエリアス内のデ

ータを使用できます。従って、使用するデータベースファイルをエリアス名で切り換えて使用することができます。

なお、BDEについて詳しく知りたいときは、コントロールパネル内のBDE Administratorを起動後、ヘルプをご参照ください。

2. アンインストール

コントロールパネルの[アプリケーションの追加と削除]でアンインストールできます。ただし、これを実行すると、データファイルを含め、セットアップ時にインストールされた、すべてのファイルが削除されます。データファイルを残しておきたいときは、アンインストールを実行する前にデータファイルのバックアップを作成してください。

★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★
★ データファイルをバックアップ後、アンインストールを実行してください。 ★
★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★

■使用方法

「カンタン金銭出納帳」を起動すると、ボタンで切り換えるノートブック形式の画面が表示されます。「金銭出納帳」「印刷／集計」「メモ」「科目修正」「レコード管理」「バックアップ」が主要なページです。

- | | |
|--------------|----------------------------|
| 「金銭出納帳」 ページ | レコードの入力を行ないます。 |
| 「印刷／集計」 ページ | 金銭出納帳の印刷や科目ごとの集計と印刷を行ないます。 |
| 「メモ」 ページ | メモを取っておくことができます。 |
| 「科目修正」 ページ | 勘定科目と区分の登録や修正、削除を行ないます。 |
| 「レコード管理」 ページ | レコードの削除などを行ないます。 |
| 「バックアップ」 ページ | データファイルのバックアップを行ないます。 |
| 「お知らせ」 ページ | バージョン番号などの表示を行なっています。 |



1. レコードナビゲータボタン

金銭出納帳の一覧やメモページなどには、[<]、[>]などのレコードナビゲータボタンが表示されます。このナビゲータボタンをクリックすると、操作対象のレコードを示すレコードポインタの移動や、レコードの削除などが行なえます。

- [<] 最初のレコードに移動します。
- [<] 前のレコードに移動します。
- [>] 次のレコードに移動します。
- [>] 最後のレコードに移動します。
- [+] レコードを挿入します。[メモ]ページと[科目修正]ページのレコードナビゲータに表示されます。
- [-] レコードポインタのあるレコードが削除されます。一覧表ではレコードインジケータ(右向き▲)の表示されているレコードが削除されます。[メモ]ページでは表示されているレコードが削除されます。削除前に確認メッセージが表示されます。
- [レ] 変更を加えたレコードを登録します。
- [×] 編集を取り消して編集前の状態に戻ります。新規にレコードを追加しているときは、キャンセルします。

1.1 グリッド（ワークシート）操作

表計算ソフトのワークシートと違い、[Shift]キー+矢印キーなどでの範囲の選択はできません。

[Home]キー、[End]キー、[Ctrl]+[Home]キー、[Ctrl]+[End]キーなどは、一般的な表計算ソフトと同じように動作します。

[Home]キー レコードの行頭にカーソルが移動する。

[End]キー	レコードの行末にカーソルが移動する。
[Ctrl]+[Home]キー	先頭行にカーソルが移動する。
[Ctrl]+[End]キー	最終行にカーソルが移動する。
[F2]キー	編集モードに入る。
[Insert]キー	レコードを新規に挿入する。
[Ctrl]+[Delete]キー	レコードを削除する。

なお、グリッド上で編集や追加などが行なえるのは、[金銭出納帳]ページの金銭出納帳と、[科目修正]ページの勘定科目だけです。その他のグリッドでは編集できません。

1.2 グリッドのスクロールバー

各グリッドには、スクロールバーが表示されています。両端の矢印をクリックすると1行あるいは1列の移動が行なえます。

ただし、表示範囲を絞ってレコードを表示している場合、スクロールバーの「つまみ」は、レコードポインタの正確な位置に対応しません。レコードポインタが両端以外のときは、常に中央に表示されます。

2. [金銭出納帳]ページ

このページは、レコード入力用です。

2.1 勘定科目の一覧

左側のグリッドには、「勘定科目」の一覧が表示されます。コードをキーボードから入力するときの参照用です。なお、レコード追加時に入力したいコードを一覧から選んでダブルクリックするか[Enter]キーを押すと、そのコードが、コード入力用のテキストボックスに転記されます。

2.2 [範囲]オプション

この勘定科目一覧の上には、表示する範囲を指定するための[範囲]オプションが表示されます。勘定科目の一部分（例えば、1000～1999まで）を表示したいときに選択してください。デフォルトでは全項目が表示されます。

なお、[科目修正]ページで勘定科目を追加したり、科目名を変更したときは、その変更が表示内容に反映されます。

2.3 金銭出納帳

画面の大部分を占めて表示されているのが「金銭出納帳」です。入力済みのレコードが、日付順、コード順、入力順のいずれかで表示されます。このグリッドは、入力レコードの確認と、修正・削除のために使用します。削除はレコードナビゲータで行ないます。

[ALL]から[12月]までのタブをクリックすると、指定月の表示が行なえます。[ALL]ではすべてのレコードが表示されます。[1月]から[12月]では過去3年間の指定月のレコードが表示されます。

なお、このグリッドでもレコードの入力が行なえますが、入力は基本的に、金銭出納帳の下に表示されている入力用テキストボックスで行ないます。

2.4 並べ方

グリッド右上の日付順、コード順、入力順の各ラジオボタンは、レコードの並べ方を変更します。レコードの追加時は、[入力順]を選ぶといいでしょう。日付順やコード順を選んでいる場合、入力後のレコードが自動的に日付順やコード順に並べ替えられてしまうからです。

2.5 入力用テキストボックス

[追加]ボタンをクリックすると、金銭出納帳の最終行に新規のレコードが追加され、カーソルは[年月日]入力用テキストボックスに移動します。

[Esc]キーまたは[キャンセル]ボタンのクリックで入力をキャンセルできます。

[確定]ボタンで入力確定します。

[年月日] 年月日を「1999/01/01」「99/1/1」等のようにスラッシュ(/)で区切って入力します。追加時は、最終レコードの日付が転記され、連続して追加するときは、直前に入力した日付が転記されます。[Back space]キーなどで修正できます。入力後、[Enter]キーか[Tab]キーを押すと、次の入力用テキストボックスにカーソルが移動します。

なお、元号には対応していません。また、日付にならない形式で入力すると、エラーメッセージが表示されます。

※Windowsでは、通常、[Enter]キーでデフォルトのボタンがクリックされます。「カンタン金銭出納帳」では、レコードの入力用テキストボックスにカーソルがあるときは、[Enter]キーで次の入力用テキストボックスにカーソルが移動します。

[コード] 勘定科目テーブルで指定したコードを入力します。入力したコードに応じて、「勘定科目名」に勘定科目が表示されます。[Enter]キーまたは[Tab]キーで次の「区分」にカーソルが移動します。

[区分] 区分をドロップダウンリストから選択して入力します。区分は[科目修正]ページで設定しておきます。区分を入力しないときは、ドロップダウンから選択せずに[Enter]キーを押せば、次の[摘要]欄へ入力カーソルが移動します。

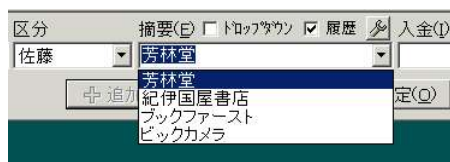
[摘要] 摘要を入力します。全角15文字まで入力できます。[履歴]チェックボックスがチェックされている場合、50個までの履歴が記録され、ドロップダウンリストから選択できます。[ドロップダウン]チェックボックスがチェックされている場合、フォーカスが移ってきたときにドロップダウンリストが自動的にドロップダウンされます。

[入金] 入金額を入力します。

[出金] 出金額を入力します。[Enter]キーまたは[Tab]キーで[確定]ボタンにフォーカスが移動します。

2.5.1 摘要欄のドロップダウンリストと履歴

Version 5で、摘要欄の入力ボックスをコンボボックスに変更しました。摘要欄へ摘要を入力すると、それが次の入力時にドロップダウンのリストとして次の図のように表示されます。



また、「カンタン金銭出納帳」終了時に、摘要欄のドロップダウンリストの内容がディスクへテキストファイル (TekiHist.dat) として保存されます。次回起動時には、この内容が読み込まれて表示さ

れます。なお、保存されるリストの項目数は50個までです。TekiHist.datはテキストファイルですから、エディターなどで編集することもできます。

[ドロップダウン]チェックボックス このチェックボックスにチェックを付けると、摘要欄へ入力フォーカスが移動したとき、自動的にドロップダウンリストが表示されます。

[履歴]チェックボックス このチェックボックスにチェックを付けると、摘要欄に入力した内容が保存され、次回の入力時にドロップダウンリストの項目として表示されます。

[履歴編集]ボタン このボタンをクリックすると、次の図のような[履歴編集]ダイアログボックスが表示されます。ダイアログボックスでは、履歴内容を編集したり、[上へ]、[下へ]ボタンで項目を並べ替えたり、[削除]ボタンで項目を削除したりできます。また、グリッドの項目をドラッグ&ドロップで並べ替えることもできます。



2.6 ボタンの説明

[追加] レコードを新規に追加します。

[キャンセル] 確定以前のレコードを取り消します。

[確定] 追加したレコードを確定します。ただし、コードや入金額あるいは出金額が入力されていないときは、その位置にカーソルが移動します。

[残高再計算] 入力したレコードは、最終的に年月日順に並べ替えられます。従ってその順番に適合していない順にレコードを入力したときは、残高再計算が必要になります。残高の正確な金額は、金銭出納帳を印刷するときに必要です。

なお、新規にデータを入力しているときの残高欄の残高は、入力時点での最終レコードの残高を元に計算されます。

[終了] カンタン金銭出納帳を終了します。

[↑](上向き矢印) 金銭出納帳のウィンドウの高さをスクリーンいっぱいまで広げます。ただし、マルチモニターの場合、メインのモニターの高さに合わせて広げますからご注意ください。

2.7 グリッドの色別表示と画面位置の保存

[1行おきに色を付ける]チェックボックスにチェックを付けると、1行おきに色が付いてグリッドが表示されます。Windowsのヒント色が使われます。

ヒント色は、[画面のプロパティ]の[デザイン]パネルを開き、[詳細設定]ボタンをクリックして[デザインの詳細]プロパティエディタを表示して行ないます（Windows XPの場合）。

[終了時の位置とサイズを保存する]チェックボックスにチェックを付けると、終了時の位置とサイズが保存され、次回起動時に、その位置とサイズで表示されます。

3. [印刷／集計]ページ

このページは、[金銭出納帳印刷]ページ、[科目別集計／印刷]ページ、[区分別集計]ページに別れています。金銭出納帳の印刷、科目別集計と印刷、区分別集計と印刷を行ないます。

年月日	コード	勘定科目	区分	摘要	入金	出金	残高
2000/01/01	2009	交際費	伊藤	お年玉		5,000	61,563
2000/01/02	2002	ソフト費	伊藤	J & P渋谷店		6,800	54,763
2000/01/03	2001	資料費	久保田	紀伊國屋書店		600	54,163
2000/01/04	2006	発送郵送費		クロネコヤマト		640	53,523
2000/01/04	2001	資料費	松井	紀伊國屋書店		1,000	52,523
2000/01/05	2012	租税公課		切手代		2,000	50,523
2000/01/05	2003	備品費		紀伊國屋書店		1,500	49,023
2000/01/05	2005	通信費				540	48,483
2000/01/07	3001	売上		顧客	5,000		53,483
2000/01/25	2001	資料費	伊藤	芳林堂		500	52,983
2000/01/26	2002	ソフト費	田中	J & P渋谷店		6,000	47,983
2000/01/26	2001	資料費	藤田	芳林堂		600	47,383
2000/01/26	2003	備品費		文具屋		300	47,083
2000/01/31	2003	備品費		文具屋		600	46,483
合計					5,000	25,080	

3.1 [金銭出納帳印刷]ページ

[印刷方法]グループの[年度でまとめて印刷する]オプションを選択すると、[決算月]入力ボックスが有効になります。この指定では、[印刷したい年]は[決算月]によって前年も含むようになります。

例えば、[印刷したい年]を1995年、[決算月]を3月としたときは、1994年4月から1995年3月までの期間のレコードが印刷されます。

[印刷方法]で[指定月ごとに印刷する]を選択したときは、[印刷したい年]と[印刷したい月]で指定した年と月のレコードだけが印刷されます。

3.1.1 ボタン

[範囲適用] このボタンをクリックすると、指定されている印刷方法の範囲でレコードがグリッドに表示されます。同時にレコード数には指定されている範囲のレコード数が表示されます。

また、[ヘッダー]テキストボックスには、指定した内容に即したテキストが入力されます。このテキストボックスの内容は変更可能です。

なお、[範囲適用]ボタンを再クリックすると、ヘッダーのテキストが書き換えられます。変更した内容で印刷したいときは、印刷直前にヘッダーの内容を修正してください。

[範囲解除] 範囲の適用が解除され、グリッドが空になります。

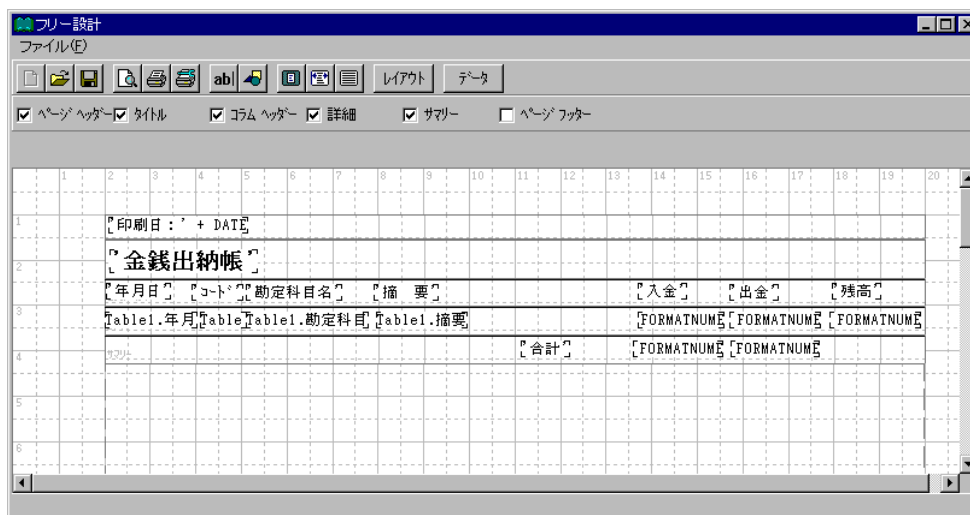
[印刷] 選択されている範囲のレコードがプレビュー画面に表示されます。プレビュー画面の[印刷]ボタンをクリックすると印刷が開始されます。

[フリー印刷] [フリー設計]ダイアログボックスで設計された印刷用レイアウトを使って、プレビュー画面を表示します。次のフリー設計で設計されているKinsensu.QRファイルをデフォルトの印刷用レイアウトとして読み込みます。

なお、フリー印刷の場合、月ごとに改ページして印刷することはできません。

[フリー設計] 次の図のような[フリー設計]ダイアログボックスを表示します。印刷したい項目の選択やレイアウトの変更などが行なえます。フリー設計については、[フリー設計]ウィンドウの項をご参照ください。

[ファイル出力] 抽出されたレコードをCSV形式のテキストファイルとして保存できます。



3.2 [科目別集計／印刷]ページ

[金銭出納帳印刷]ページとほぼ同じ設定内容です。

[集計開始]ボタンをクリックすると、左側のグリッドには、設定した範囲のレコードが表示され、右側のグリッドには科目別に集計された金額が表示されます。

[印刷]ボタンをクリックすると、右側の集計結果がプレビューに表示され、印刷が行なえます。印刷イメージは、右側のグリッドとほぼ同じですが、1行目にはヘッダーのテキストが印刷され、最終行には合計が印刷されます。

なお、[フリー印刷]では、SyukeiQR.QR ファイルをデフォルトの印刷用レイアウトとして読み込みます。

3.3 [区分別集計]ページ

[集計開始]ボタンをクリックすると、区分が入力されているレコードを、指定された集計方法で集計します。左のグリッドには、区分が入力されている指定された範囲のレコードが表示され、右側のグリッドには、区分と勘定科目ごとに集計した入金と出金の合計が表示されます。

[並べ方]グループでは、区分を優先するか、勘定科目を優先するかを指定できます。

[空白の区分も集計する]チェックボックスにチェックを付けると、区分が設定されていないデータも集計されます。

[印刷]ボタンをクリックすると、右側の集計結果がプレビューに表示され、印刷が行なえます。

カンタン金銭出納帳 - エリア:kinsenv6

金銭出納帳(S) | 印刷/集計(T) | メモ(N) | 科目修正(K) | レコード管理(M) | バックアップ(B) | お知らせ

↑ | 終了(Q)

金銭出納帳印刷 | 科目別集計/印刷 | 区分別集計

集計したい年(Y): 2000
 決算月(M): 12
 月別に集計(Q): 1

印刷方法(Q):
 年度でまとめて集計する
 指定月ごとに集計する

並べ方(Q):
 区分、勘定科目の順
 勘定科目、区分の順
 空白の区分も集計する

ヘッダー(H): 2000年 区分別集計表(12月決算)

レコード数: 15

年月日	コード	勘定科目	区分	入金	出金	区分	勘定科目	入金の合計	出金の合計
2000/01/04	2006	発送郵送費			640		交際費		5,000
2000/01/04	2001	資料費			1,000		資料費		1,500
2000/01/05	2012	租税公課			2,000		租税公課		2,000
2000/01/05	2003	備品費			1,500		通信費		540
2000/01/05	2005	通信費			540		売上	5,000	
2000/01/07	3001	売上		5,000			発送郵送費		640
2000/01/25	2001	資料費			500		備品費		2,400
2000/01/26	2002	ソフト費	伊藤		5,000	伊藤	ソフト費		11,800
2000/01/28	2001	資料費	田中		600	久保田	ソフト費		5,000
2000/01/28	2003	備品費			300	久保田	資料費		600
2000/01/31	2003	備品費			600	田中	資料費		600
2000/02/01	2002	ソフト費	久保田		5,000				
				合計	5,000	30,080			

集計開始(A) | 印刷(G)

4. [メモ]ページ

長文のテキストを入力できます。

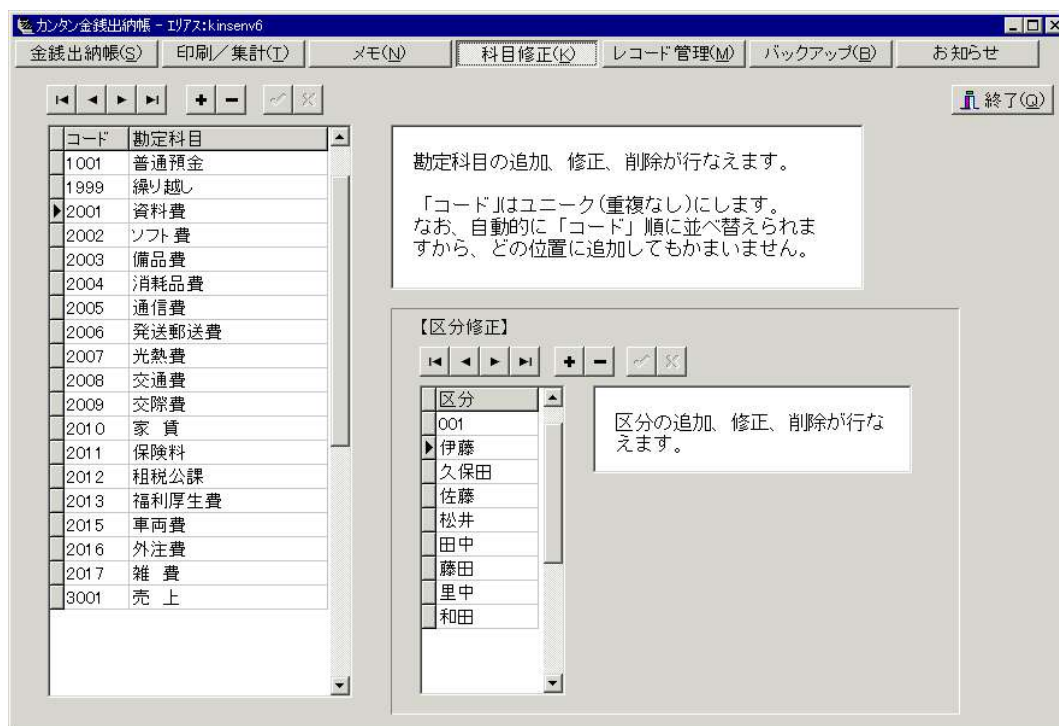
5. [科目修正]ページ

コードと勘定科目名、区分の設定ページです。ここで設定した内容が[金銭出納帳]ページに表示されます。

コードは基本的に、半角4桁以内で0000～9999までの間で設定します。英字、全角文字も使用できますが、これらのコードは、[金銭出納帳]ページの[全項目]オプションを選んだ場合だけ、[金銭出納帳]ページ左側の一覧に表示されます。

勘定科目名は、全角10文字以内で設定できます。ただし、[金銭出納帳]ページでのデフォルトの表示幅は全角5文字です。それ以上の幅で表示したいときは、各項目の列見出しの右端にマウスポインタを合わせ、ドラッグ用の表示が出たら、表示させたい幅までドラッグしてください。

区分は全角5文字以内で設定します。ここで設定した内容が金銭出納帳の区分欄に表示されます。なお、設定されている区分以外の区分も金銭出納帳の区分欄に入力できます。



6. [レコード管理]ページ

パスワードの設定やレコードの削除を行います。

パスワードは、金銭出納帳ごとに設定されます。パスワードを設定するには、[パスワードを設定／変更／削除する]チェックボックスにチェックを付けた後、パスワード入力ボックスへ半角英数字15文字以内で入力します。確認のために、2つ目の入力ボックスへ同じパスワードを入力すると、[設定／変更]ボタンが有効になります。このボタンをクリックするとパスワードが設定されます。変更および削除も同様の操作で行ないます。

なお、パスワードを設定した場合、そのパスワードを忘れないようにしてください。パスワードを忘れた場合、二度と該当の金銭出納帳を開くことができません。また、パスワードが設定されている金銭出納帳から、プログラムのパスワードを取得する方法はありません。

レコードの削除では、指定月以前あるいは全レコードの削除が行えます。

なお、いったん削除したレコードは復活できません。削除前にバックアップを作成することをおすすめします。

また、他のディレクトリにあるカンタン金銭出納帳用のデータを読み込んで追加することもできます。

カンタン金銭出納帳 - エリア:kinseny6

金銭出納帳(S) 印刷/集計(I) メモ(N) 科目修正(K) レコード管理(M) バックアップ(B) お知らせ

終了(Q)

パスワードの設定

パスワードを設定/変更/削除する

パスワード入力ボックス

確認のため再入力
半角英数字15文字以内

設定/変更(P) 削除(X)

[設定/変更]ボタンのクリックでパスワードが設定あるいは変更されます。
[削除]ボタンでパスワードが削除されます。
パスワードを設定した場合、パスワードを忘れないようにしてください。パスワードを忘れると、二度とデータを開くことができなくなります。

指定日以前のレコード削除(Q):

1995 年 1 月以前のレコードを削除します。

指定レコード削除(Q)

金銭出納帳から指定日以前のレコードを削除します。
実行前にテーブルのバックアップを作成しておくことをおすすめします。

全レコードの削除

全レコード削除(Z)

金銭出納帳とメモ用のテーブルから、すべてのレコードを削除します。
全レコードの削除を実行すると、テーブルのレコード数が0になります。
実行前にテーブルのバックアップを作成しておくことをおすすめします。

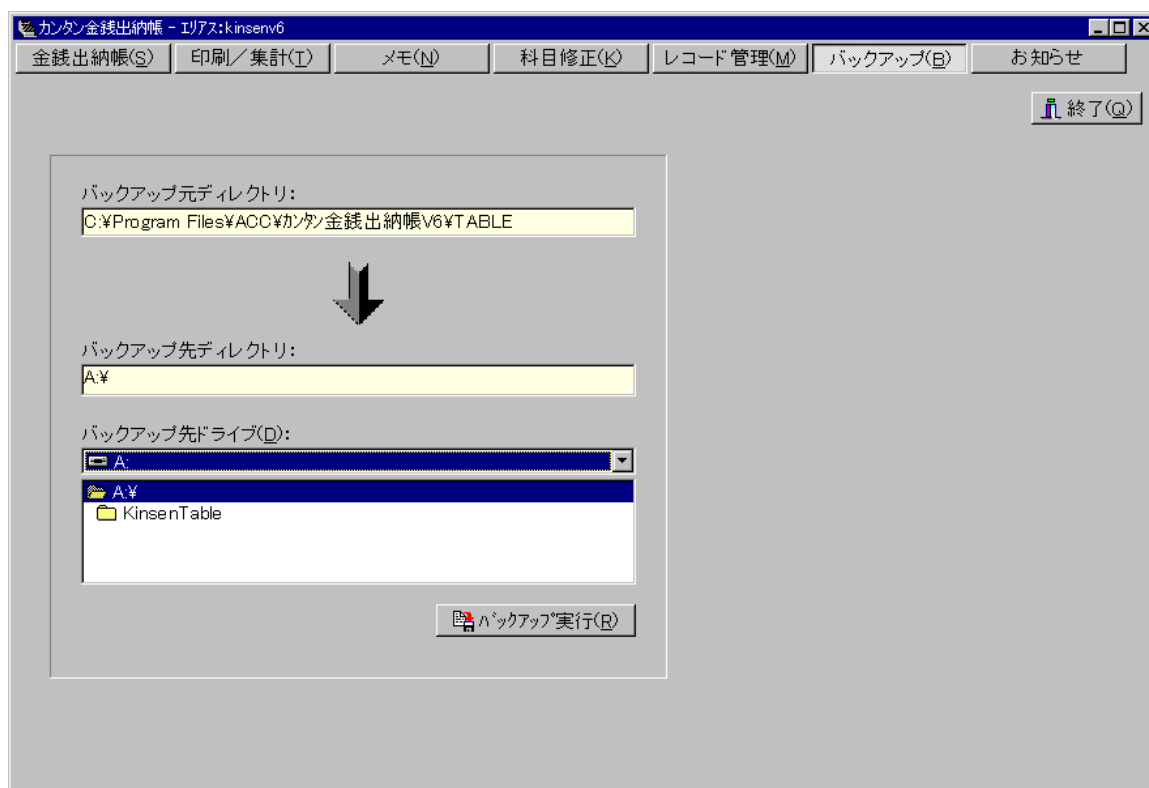
次の「カンタン金銭出納帳」のレコードを読み込む(A):

読み込み実行(R) キャンセル(Q)

「カンタン金銭出納帳」のレコードを追加します。
勘定科目名は科目名の整合性を保つため、読み込み先の勘定科目テーブルで、コードと勘定科目名が置き換えられます。

7. [バックアップ]ページ

指定のバックアップ先ドライブへ金銭出納帳のデータをバックアップします。



8. [フリー設計]ウィンドウ

カンタン金銭出納帳では、印刷関係をQuSoft AS社製の印刷用コンポーネントQuickReport Version 2.0を使って作成しています。[フリー設計]ウィンドウでは、それらのコンポーネントの1つであるレポートデザイナーを組み込んで使用しています。

以下、レポートデザイナーを組み込んだ[フリー設計]ウィンドウの使い方について解説します。

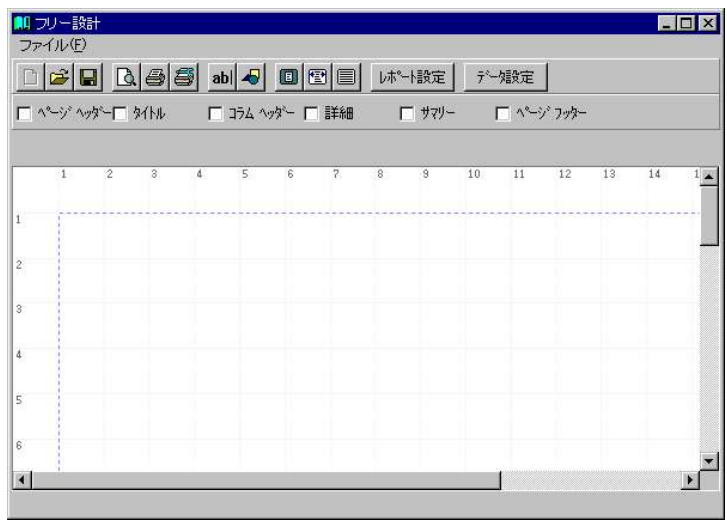
8.1 既存のレポート定義ファイルを読み込む

印刷などで[フリー設計]ボタンをクリックすると、既存のレポート定義ファイルが読み込まれた状態で[フリー設計]ウィンドウが表示されます。[フリー設計]ウィンドウのメニューから[ファイル]→[開く]を選択後、既存のレポート定義ファイル(*.QR)を選択して読み込んで同様になります。

レポート定義ファイルには、そのレポートが利用するデータベースファイル名やレポートのレイアウトの設定、表示する項目などの定義が保存されます。したがって、レポート定義ファイルを新規に作成したり、既存のレポート定義ファイルで使用しているデータベースファイルを変更したりして、まったく新しいレポートを定義して作成することもできます。

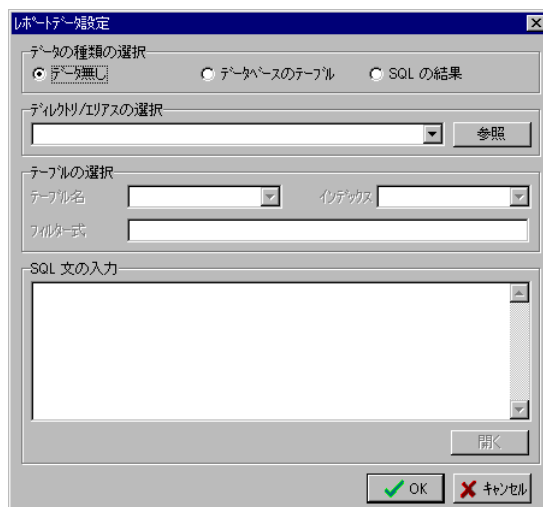
8.2 レポート定義ファイルを新規に作成する

[フリー設計]ウィンドウのメニューから[ファイル]→[新規作成]を選択すると、次の図のように新しいレポートが表示されます。



8.2.1 データベースファイルを指定する

レポートで利用するデータベースファイルを指定するには、ツールバー上の[データ設定]ボタンをクリックします。次の図の[レポートデータ設定]ダイアログボックスが表示されます。



[データの種類の選択]グループでは、データベースのテーブルを利用するか、それともSQLの結果を利用するかを選択します。通常は[データベースのテーブル]オプションボタンを選択します。

●データベースのテーブルを選択する

データベースのテーブルを選択するには、次のように操作します。

①[データベースのテーブル]オプションボタンを選択する。

[データベースのテーブル]オプションボタンを選択すると、[テーブルの選択]グループが有効になります。

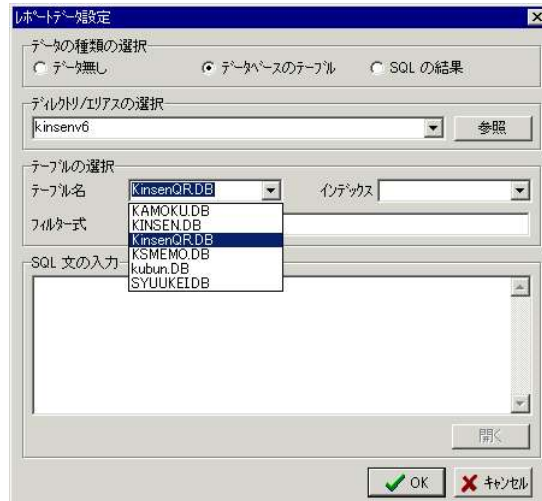
②[ディレクトリ/エリアの選択]グループでデータベースファイルの保存先を選択する。

[ディレクトリ/エリアの選択]グループのドロップダウンリストボックスを開くと、そのコンピュータで定義されているデータベースのエリア（ディレクトリに付けられている別名）がリスト表示されます。カンタン金銭出納帳のデータベースファイルは、"kinsenv6"エリアに保存されていますから、リストから"kinsenv6"を選択します。

エリアが設定されていないディレクトリ（ディレクトリ）を選択するには、[参照]ボタンをクリック後、表示される[ディレクトリの選択]ダイアログボックスで目的のディレクトリを選択します。

③[テーブルの選択]グループでテーブルやインデックスを指定する。

[テーブルの選択]ドロップダウンリストを表示すると、次の図のように選択されているディレクトリ/エリア内のデータベーステーブルが表示されます。このリストから使用したいテーブルを選択します。



選択したテーブルにインデックスが定義されている場合、[インデックス]ドロップダウンリストからインデックスを選択できます。

④フィルター式で抽出条件を設定する。

フィルター式を指定すると抽出条件を設定できます。フィルター式を空白のままとしたときは、すべてのレコードが表示されます。

⑤[レポートデータ設定]ダイアログボックスの[OK]ボタンをクリックする。

以上で、作成中のレポート定義ファイルがデータベーステーブルを使用できるようになります。

●SQLで接続する

SQL文で行なうときは次のようにします。

①[データの種類の選択]グループで[SQLの結果]オプションボタンを選択する。

②[ディレクトリ/エリアの選択]グループでデータベースファイルの保存先を選択する。

③次のように[SQL文の入力]テキストボックスにSQL文を入力する。

```
select * from KinsenQR.DB
```

⑤[レポートデータ設定]ダイアログボックスの[OK]ボタンをクリックする。

入力したSQL文が間違っている場合、エラーメッセージが表示されます。SQL文の書き方については、市販の関連書籍をご参照ください。

8.2.2 レイアウトを設定する

使用する用紙のサイズや基本となるフォントなどを設定するには、ツールバー上の[レポート設定]ボタンをクリックします。次の図の[レポート設定]ダイアログボックスが表示されます。



●用紙サイズを設定する

印刷で使用する用紙のサイズは、[用紙サイズ]グループで設定します。[用紙サイズ]ドロップダウンリストには、基本的な用紙のリストが表示されます。

リストに載っていない用紙サイズを設定するには、Custom Sizeを選択して[幅]ボックスと[長さ]ボックスに値を設定します。

用紙の方向を指定するには、[用紙サイズ]グループの右端のリストから、「縦」または「横」を選択します。

●余白を設定する

印刷時の余白を設定するには、[余白]グループの上、下、左、右の各ボックスに値を入力します。

また、段組みを設定するには、[段組み]スピンボックスで段数を指定します。その際、段と段の間隔を設定したいときは、[段間隔]ボックスに値を入力します。

●基本のフォントやスケールの単位を設定する

用紙で使用する基本のフォントは、[その他]グループの[フォント]ドロップダウンリストから選択します。フォントのサイズは[サイズ]ドロップダウンリストから選択します。

また、スケールの単位を変更したいときは、[単位]ドロップダウンリストから変更したい単位を選択します。

●ページに枠を表示したいとき

印刷するページに枠を表示したいときは、[ページ枠]グループで設定します。

上、下、左、右の各チェックボックスにチェックを付けると、指定した枠が表示されます。

枠の色を変更したいときは、[変更]ボタンをクリック後、表示される[色の設定]ダイアログボックスで、使用したい色を選択します。

枠の太さを指定したいときは、[枠の太さ]スピンボックスで設定します。

●レコードのデータを表示するためのバンドを選択する

バンドとは、レコードのデータを表示するためのテンプレートのことです。バンドには、上から表示される順番で、ページヘッダー、タイトル、コラムヘッダー、ディテイルバンド（詳細）、サマリー、ページフッターがあります。

ページ上のバンドを選択していないとき、ツールバーに各バンドのチェックボックスが表示されます。このチェックボックスをチェックして各バンドを表示するかどうかを設定できます。

「ページヘッダー」は、すべてのページで最初に表示されるバンドです。先頭ページにページヘッダーを表示するかどうかは、[レポート設定]ダイアログボックスの[最初のページにヘッダーを印字]チェックボックスで設定します。

「タイトル」は、先頭ページのヘッダーのあとで1回だけレポートに印刷されるバンドです。タイトル、印刷日などを印刷するときに使います。

「コラムヘッダー」は、各レポート列の先頭に印刷されるバンドです。

「ディテイル（詳細）」は、データベーステーブルの各レコードごとに1つ印刷されるバンドです。レコードのデータを表示するのに使用します。レコードの詳細を表示するためには必須のバンドです。

「サマリー」は、すべてのディテイルバンドの印刷後に印刷されるバンドです。合計値などを表示するために指定します。

「ページフッター」は、すべてのページで印刷される最後のバンドです。最終ページにページフッターを印刷するかどうかの設定は、[レポート設定]ダイアログボックスの[最終ページにもフッターを印字]チェックボックスで行ないます。

8.2.3 表示するバンドを選択する

[フリー設計]ウィンドウのツールバー上で、各バンドのチェックボックスをチェックすると、次の図のようにページ上に各バンドが表示されます。これらのバンドの中に、印刷したい文字列やデータを指定します。



8.2.4 バンドの高さを変更する

バンドの高さを変更するには、バンドをクリックして選択後、表示されたハンドル（四隅と各辺の中央に表示される小さな■）を上下にドラッグします。なお、左右の幅は余白で決まるため、ドラッグでは変更できません。

8.2.5 バンドに枠を表示する

ページ上に配置されたバンドの1つを選択すると、ツールバーに罫線を表示するためのアイコンが次のように表示されます。



ツールバー上の各ボタンでは、左枠、上枠、下枠、右枠の表示の有無を指定できます。ボタンをクリックして押下した状態にすると枠が表示されます。

8.2.6 バンドにテーブルのデータを配置する

バンドにデータを表示するには、データを表示するための式オブジェクトを配置します。そして、その式の内容を定義します。操作は次のように行ないます。

①ツールバー上の **abl** ボタンをクリックする。

②データを表示したい位置をマウスでクリックすると、[(none)]と表示されているオブジェクトが挿入される。

次の図では、詳細バンドの左上隅をクリックしてオブジェクトを配置しています。配置後のオブジェクトはマウスのドラッグで位置を変更できます。



③配置したオブジェクトを選択後、ツールバー上の **f_x** ([式の設定])ボタンをクリックする。

次の図の[式の設定]ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスを使って、式の内容を設定することができます。



なお、**f_x** ボタンの右側のテキストボックスに、式を直接、キーボードから入力してもかまいません。

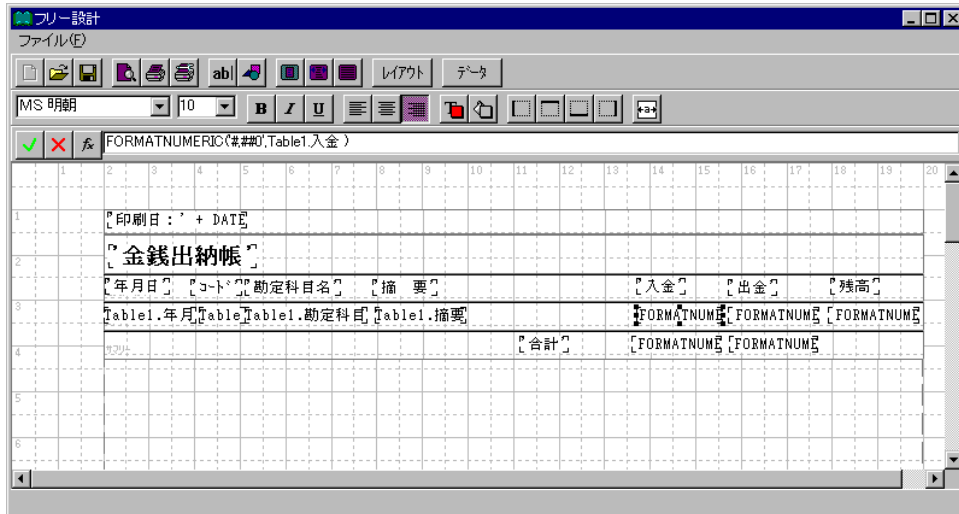



④[項目]リストから表示したいフィールド名をクリックして選択後、[追加]ボタンをクリックする。

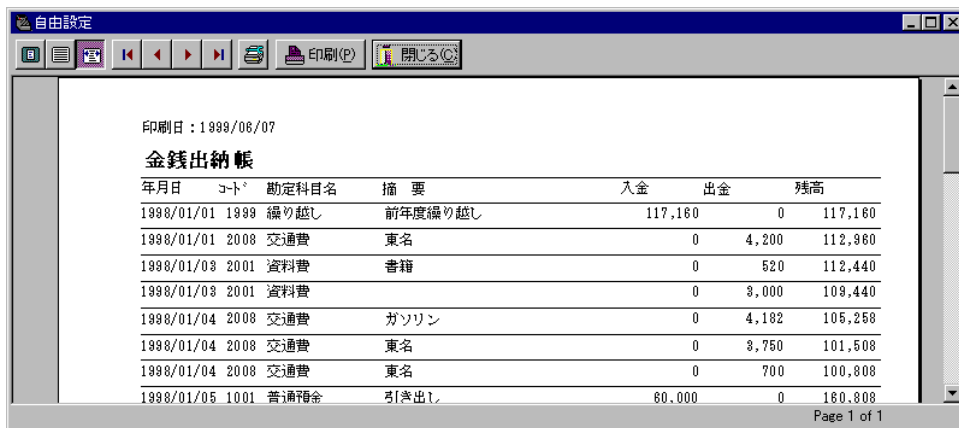
下のテキストボックスに「Table1.フィールド名」の形式で選択したフィールド名が表示されます。

⑤[OK]ボタンをクリックする。

バンド上のオブジェクトに式の内容が表示されます。この手順を繰り返して、ページ上にオブジェクトを配置し、レイアウトを完成させます。



印刷プレビューを表示するには、ツールバー上の  ([プレビュー])ボタンをクリックします。次の図のようにプレビューが表示されます。



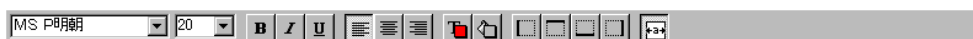
⑥[ファイル]→[名前を付けて保存]でレポート定義ファイルを保存する。

レポート定義ファイルを保存しておくには、[ファイル]→[名前を付けて保存]を選択して、[ファイル名を付けて保存]ダイアログボックスで保存します。デフォルトの拡張子として.QRが付きます。

既存のファイルを開いたときは、[ファイル]→[上書き保存]で上書きできます。

8.2.7 データのフォントなどを設定する

バンド上のオブジェクトを選択すると、次の図のツールバーが表示されます。オブジェクトのそれぞれについて、フォント名、サイズ、装飾を指定したり、表示位置を設定したり、文字色、背景色、オブジェクトの枠の表示、式の内容に応じて自動的にサイズを広げるかどうかなどの設定ができます。



8.3 [式の設定]ダイアログボックス

[式の設定]ダイアログボックスは、①数値や文字列の定数を入力するパネル、②関数を入力するパネル、③データセット（データベーステーブル）の項目（フィールド）を選択して入力するパネル、④演算子を入力するパネルの4つからできています。

8.3.1 定数を入力する

数値あるいは文字列の定数を入力するには、次の図の[定数]グループを使います。

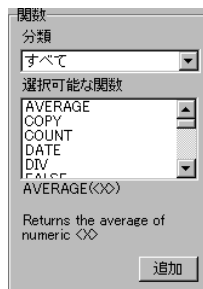


数値あるいは文字列を式に入力するには、テキストボックスに値を入力後、ドロップダウンリストから"数値"または"文字列"を選択して、[追加]ボタンをクリックします。

[追加]ボタンをクリックすると、ダイアログボックス下部のテキストボックスに設定した値が入力されます。

8.3.2 関数を入力する

関数を入力するには、次の図の[関数]グループを使います。



関数には、次のものがあります。使用したい関数を選択して[追加]ボタンをクリックします。なお、関数が引き数を必要とする場合、それらの引き数を埋めるために新しい[式の設定]ウィンドウが表示されます。

●日付と時刻の関数

DATE システムの日付を文字列として返します。
TIME システムの時刻を文字列として返します。

●数学関数

DIV(<X>, <Y>) 整数除算
FRAC(<X>) 引数Xの小数部を返す
INT(<X>) 引き数Xの整数部を返す
SQRT(<X>) 引き数Xの平方根を返す

●統計関数

AVERAGE(<X>) 引き数Xの平均値を返す
COUNT 反復のカウント
MAX(<x>) 引き数Xの最大値を返す
MIN(<X>) 引き数Xの最小値を返す
SUM(<X>) 引き数Xの合計を返す

●論理関数

FALSE 論理値False

IF(<Exp>, <X>, <Y>) 式<Exp>がTrueなら<X>、Falseなら<Y>を返す
TRUE 論理値True

●情報関数

typeof(<Exp>) <Exp>のデータタイプを返す

●その他の関数

COPY(<X>, <Start>, <Len>) 文字列Xの部分文字列を返す。<Start>が開始位置、<Len>が文字数

FORMATNUMERIC(<F>, <N>) 数値<N>を書式<F>で返す

LOWER 小文字で返す

PRETTY(<X>) 1文字目が大文字、残りを小文字にして返す

STR(<X>) 数値Xを文字列にして返す

UPPER(<X>) 大文字で返す

8.3.3 データ項目の項目を入力する

データ項目を入力するには、次の図の[データ項目]グループを使います。



[レポートデータ設定]で指定したデータベースと接続するためのデータセットがTable1（データの種別でデータベースのテーブルを選択した場合）またはQuery1（SQLの結果を選択した場合）として[データセット]ドロップダウンリストに表示されます。ドロップダウンリストには、カンタン金銭出納帳が使用している他のデータセットも表示されますが、Table1またはQuery1以外を選択しても、レコードのデータは表示されません。

[項目]リストには、使用できる項目（フィールド）名が表示されます。この中から表示したい項目を選択して[追加]ボタンをクリックします。

8.3.4 演算子を入力する

演算子を入力するには、次の図の[演算子]グループを使います。



入力したい演算子が表示されているボタンをクリックすると、ダイアログボックス下部のテキストボックスに演算子が入力されます。

■ファイル一覧

◎プログラムファイル

KINSEN.EXE プログラム本体

◎データファイル (Paradoxテーブル形式)

注) セットアップ先ディレクトリのサブディレクトリであるTableディレクトリにセットアップされます。

KINSEN.DB	金銭出納帳テーブル
KINSEN.PX	同インデックスファイル
KINSEN.XG0	同インデックスファイル
KINSEN.YG0	同インデックスファイル
KINSEN.X02	同インデックスファイル
KINSEN.X03	同インデックスファイル
KINSEN.Y02	同インデックスファイル
KINSEN.Y03	同インデックスファイル
KAMOKU.DB	勘定科目テーブル
KAMOKU.PX	同インデックスファイル
SYUUKAI.DB	科目集計記録ファイル
KSMEMO.DB	メモ用テーブル
KSMEMO.MB	メモ用テーブル (メモフィールド用)
KSMEMO.PX	同インデックスファイル
KINSENQR.DB	金銭出納帳印刷用ファイル
KUBUN.DB	区分保存用テーブル
KUBUN.PX	同インデックスファイル

※セットアップ先のサブディレクトリであるSampleDataディレクトリには、サンプルのデータが入力済みの各テーブルがあります。[レコード管理]ページでレコードを読み込んで、データの操作やレコードナビゲータを使ってのレコードの削除を練習してみてください。レコードの日付は1997年、1998年になっていますので、集計時にはその年度を指定してください。

◎設定ファイル

注) 設定ファイルは、KINSEN.EXEが保存されているディレクトリに作成されます。

SgKinsen.ini	履歴を取るかどうかの設定が保存されるファイル
TekiHist.dat	摘要欄のドロップダウンリストに表示される項目が保存されているファイル

◎その他

金銭出納.hlp	ヘルプファイル
金銭出納.cnt	ヘルプファイルの目次
README.DOC	このファイル

■転載・配布について

カンタン金銭出納帳はフリーウェアです。転載・配布は自由です。制限はありません。作者への事前の連絡も必要ありません。転載の場合は事後でかまいませんから、転載先を連絡していただければ幸いです。

■開発環境

開発言語 Borland Delphi 6 Professional
使用OS Windows XP Professional
開発マシン DOS/Vマシン（Pentium 1500MHz+384MBメモリ）

■免責事項

本プログラムはご本人の責任でお使いください。
運用結果につきまして作者はいつさいの責任を負いません。

1999年6月20日

11月14日訂正

2001年3月25日訂正

2003年2月19日訂正

2003年8月23日訂正

伊藤博康（ITOU Hiroyasu）
hiroitou@signet.co.jp
PAF00435@nifty.ne.jp